

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家平岸 (あじさい)		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1-26		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 25 年 7 月 29 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「安心して、生きがいを持って、楽しく心豊かに、地域に愛され馴染みのある生活の継続」の理念を掲げて、利用者が地域の中で安心して生活ができる家となっています。法人の理念のほか職員個人の目標や毎月ユニット毎に理念を踏まえた目標を掲げ、意義を確認し、日々ケアの実践に向けて取り組んでいます。職員は外部の研修参加のほか、法人の年間計画を基に毎月実施されている少人数での内部研修も活用しており、研修の積み重ねを通してスキルアップを図っています。地域の一員として町内会行事の参加やホームの恒例行事に地域の方にも参加を呼びかけ、利用者も一緒に参加し交流を深めています。医療面では月2回の協力医の訪問診療や週1回の訪問看護による健康管理の支援も行っており利用者や家族の安心に繋がっています。管理者と職員は、利用者の状況や行動パターンを把握し、職員同士の連携がスムーズで利用者も安心して穏やかに過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送りの際に参加職員全員で理念を唱和している。月に一つ理念を踏まえた目標を設定し、毎日の申し送りで日勤、夜勤者関係なく、その目標について話し合っている。会議や課題への取り組みの際も理念を踏まえた取り組みが出来ている。	職員は、法人の理念を朝夕の申し送り時に唱和しているほか、毎月ユニット毎に理念を踏まえた目標を掲げ、方針や目的意識を明確にし、日々ケアの実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の「花いっぱい運動」や「子供神輿」など毎年恒例として町内会から参加の要請があったり、消防訓練の際にはすすんでアイデアを出して参加してくれるなど協力がある。気兼ねない意見交換があり関係は良好である。	地域の一員として町内会行事や会議に参加しています。また、子供神輿の休憩場所の提供や小学校の体験学習を受け入れています。さらに恒例行事である花火大会や冬のナイトキャンドルには地域の方にも参加を呼びかけ、利用者も一緒に参加し交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や、消防訓練の場などを利用し、認知症の具体的な症状や、認知症患者の特徴などをさりげなく伝え、認知症の理解に努めている。また、認知症専門の職員が勤務していることから地域の駆け込み寺のような役割を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例えば事故事例から認知症の行動心理を分析し、その時どういった職員対応が望ましいか？など認知症の医学的理解を会話に盛り込みながら会議を進めている。地域の方同士の意見交換の場ともなっており、知り得た情報は文章で職員に周知している。	利用者家族、町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員、老人会役員などの参加を得て、2ヵ月毎に開催しています。様々な課題をテーマにして話し合わせ、そこでの意見を運営に反映させるよう取り組んでいます。	運営推進会議は、地域密着型グループホームの機能と役割に対する理解を深めて頂く為にも従来の参加メンバーに加え全家族への参加を呼びかける工夫に努め、より一層意見の活性化を図り運営に活かせるよう期待します。また議事録の公表の仕方を検討することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、定期的実施されている市や区の会議に参加し、日常の取り組み状況を報告したり、市主催の医療機関が集まる研修会に参加。事例検討やケース発表もより良いサービス向上に役立っている。区の保護課とも電話でのやり取りが随時ある。	管理者は、市や区の会議に出席したり、定期的な状況報告をはじめ、様々な機会に担当者と情報交換を行うなどして連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	課題への取り組みや日常の報告等の際に、なぜその問題が身体拘束に当てはまる恐れがあるのかと随時話し合う機会を設けている。施錠といった一つの課題があったとしても朝の申し送りなどを利用して随時周知し、どの階でも、どの職員でもその課題に取り組み、施錠に限らない視野で話し合っている。	職員は、身体拘束防止について外部や本部主催の研修会で繰り返し勉強し、日々のケアの中で不適切な行為はないか、都度、職員同士がより細かく確認しあい、意見を出し合い、気が付いたことは注意をしたりしながらケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ研修に参加したり、本部主催の研修会でも虐待について取り上げ学ぶ機会がある。外傷発見事例や職員の声掛けの内容などを随時取り上げ、朝夕の申し送りの際に周知、確認し、虐待心理への抑止に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や会議にて学ぶ機会を設けており、それぞれのスタッフが考える機会を設けている。実際に成年後見人制度を利用している方がいたり、検討している方がいるため、少しでも家族や本人に対しアドバイスができるような体制作りを心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には長い時間を使い、重要な部分は何度も繰り返し、同意を得ながら説明をすすめている。また、利用者や家族の話も十分聞き取り、不安や心配、疑問が極力少なくなるような対応に努め、必ず理解や納得を得てから署名捺印をいただくよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会があった時は必ず短い時間でも会話する時間を設けており、利用者やケアの状況はもちろんのこと、運営や法人に対しての意見も聞き取るようにしている。また、一部の利用者から「上の者に言っておいて」という言葉もある時には、情報を書きとめ随時本部に報告している。	家族が来訪した際は必ず会話をするように努め、「家族対応記録簿」に意見や要望等を記録して職員間で共有を図り、運営に反映させています。来訪できない家族には、お便りや電話で利用者の状況を報告し、その際に意見や要望を伺うようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度管理者達だけで本社に集まり、本部職員と意見交換できる場面を設けている。また管理者としても常に職員の相談や悩み事を聞く場面を設けており、勤務終了後に事務所で話す機会が多い。知り得た情報は丁寧に扱い、管理者で解決できない場合は随時本部に報告している。	職員の意見や要望、相談は、管理者やユニットリーダーが常に話を聞く機会を設けています。また、ユニット会議や毎月定期的に本部職員が参加して意見や気づき、提案に耳を傾け、事案によっては本部全体会議に繋げ運営に反映させるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部職員が会議の際に、各ユニットの現状の聞き取りを行っており、職員のストレスの緩和の為の食事会を開催するなど、職場環境を良好に保てるよう努めている。管理者も随時各階へ足を踏み入れ、職員を労ったり、休憩時間をとるよう促している。資格取得やスキルアップに対しても効果的な勉強が出来るようなアドバイスを働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回内部研修があり、本部の職員がきて認知症についての基本的なものや、リーダークラスによるコーチングについてなど対象者に合わせた勉強の機会を設けている。また、外部の研修にも参加しており日々のケアに生かせるよう取り組んでいる。毎日朝夕の申し送りの際には介護感やケア方法について学ぶ時間としても役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や会議により同業者との交流の機会がある。提携医療機関のDrの勉強会を検討したり、区の医療機関が集まる研修会にも参加している。外部のグループホーム管理者が見学に来たこともある。また、同法人系列内のホーム間の交流もあり行事や会議で交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まってから、本人への面談や見学を行い、以前住んでいた場所での環境を確認するなどして入居後のダメージを軽減するよう努めている。また、入居後は特に心配や不安が強い傾向がある事から入居者や家族への会話を重視し、少しでも安心できるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や聞き取りだけではわからなかった事も、入居してから本人像が職員も利用者お互いわかってくることもある。入居されてからも入居者からは何気ない日常の会話から以前の生活状況や要望を確認し、現在の環境に照らし合わせて対応するなど取り組んでいる。また、ケアプランにも知り得た情報を反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門職としての職員目線と、入居者家族の思いや気持ち、また、本人の状態や生活状況を十分アセスメントし、それを身近な職員（特にリーダー）がまとめる役割をもって入居者本人が一番ベストである対応を行うよう取り組んでいる。基本的にはケアプランがケア方針の役割を担っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や行事といった役割や取り組みを通し、職員と一緒に学んだり、喜んだり、共感したりと同じ目線で取り組むよう関わっている。取り組みの際には感謝の言葉を伝えたり、時には教えるような立場になったとしても相手の尊厳を守りながら取り組むよう意識している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠であったり、物理的に離れている家族に対しても近況報告を行い、家族の気持ちを探りながら徐々にホーム、家族、本人の距離を近づけている。時にはホームから離れた場所で会ったり、電話から関わりを増やしたり、荷物のやり取りだったり、今出来る範囲で最大限の関わりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関わりがあった知人や友人の面会が時々あり、必ずキーパーソンの承諾を得てから面会に結び付けている。また、行事やレクを利用し昔住んでいた場所周辺のスーパーや道、公園に出かける等しており、馴染みの場所や人との関係性が途切れないよう関わっている。	家族や友人が気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めていますが、必ずキーパーソンの承諾を得て面会に結び付けています。また、馴染みの場所やスーパーにドライブがてら出かけるなど、それまでの暮らしを大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者様と交流を持つのが難しい方は、スタッフが間に入って橋渡しをしたり、職員が入居者の気持ちを代弁するなどしてより良い関係性に結び付けている。時には入居者が他の入居者の手伝いをしたり、助けている場面があっても、直ぐに制止したりせず見守るなど支え合える関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も御家族から連絡があったり、必要書類の確認などで連絡を取る場合もある。そういった場面でも利用者の望ましい生活像へのサポートの為、介護相談や生活相談、社会資源の紹介などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望などは変化し続けることを踏まえ、こまめに話を傾聴している。遠慮したりし話だけでは把握しきれない場合もあり、生活の様子を見ながら、進めている。	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの表情や仕草から思いや意向を把握しています。困難な場合はジェスチャーや選びやすい選択肢を設け意思を確認したり、生活歴や家族の協力を得ながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス担当者や相談員から事前情報をもったり、家族からも昔の仕事や得意だった事など面会の際に確認している。また、センター方式も家族に手伝ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報交換を行い、本人の希望や生活歴を踏まえながら本人なりの生活を支援している。その日の心身の状況によっても一日の過ごし方が違う為、9人それぞれの、その日の状況に合わせて柔軟に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のユニット会議や毎日のカンファレンスで職員同士の情報交換を行い、御家族や利用者だけではなく、主治医や整骨院の施術状況なども踏まえながら介護計画を作成している。本人の意見は実際に部屋でアセスメントしたり、日常の会話から聞き取った事を活かすことが多い。	職員は、月1回のユニット会議や毎日のカンファレンスで気づきを集約、情報交換し家族や本人の要望を聞き、医療面での情報も反映させて介護計画を作成しています。なお、介護計画は3ヵ月毎に見直され、変化時には実情に即して見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の取り組みや家族との会話、介護記録等を踏まえた上で、月に1度、皆で集まり会議を開いたり、毎朝の申し送りの際でケアの見直しを行っている。リーダーはそれらの情報を元にケアプランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のボランティア団体による歌の会や、馴染みのある理容室の訪問理容、家族が希望する病院への受診など随時対応している。地域の方々の協力もあり町内会から地域行事の誘いも多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の立案には地域の社会資源としてボランティア団体の活動を利用したり、地域行事に参加したり、近隣の施設を利用するなどして社会との繋がりを意識した取り組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、利用者様や家族様が希望した場合は随時他医療機関を利用して、その際には事前情報を提供したり、情報提供書の作成を依頼するなど、病院間の橋渡しをスムーズに行えるよう取り組んでいる。	月2回の協力医療機関の往診や週1回の訪問看護による健康管理の支援も行っており本人や家族の安心に繋がっています。また、本人や家族の希望で他科への外来通院同行など適切な医療が受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と医療連携導入により、訪問看護ステーションと提携し24時間体制で医療面のバックアップがある。ホームの取り組みの中で医療面での疑問や心配事は随時相談できる形となっており、良好な信頼関係が出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は早期退院に向けて管理者を中心に相談員や家族とこまめに連絡を取り合っている。入院時には身近に関わっている代表として病院とやり取りする事が多く、生活状況、特に認知能力についての確に伝えるよう意識している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関の連携が良好である為、訪問診療時や訪問看護時を利用し、こまめに入居者の状況に合わせた話し合いが出来ている。状況に合わせて医療機関から家族へのムンテラが行われており、ホームとしてできる事を見直ししながら慎重に取り組んでいる。	重度化や看取りの指針を作成しており、入居者の状況に合わせて家族や医師、関係者と十分な話し合いを重ね、ホームで出来ることを説明しています。全職員が方針を共有し、家族の気持ちに配慮しながら慎重に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や初期対応の訓練を実施している。自主避難訓練の際には応急手当が必要なケースを課題にして取り組んだり、夜の申し送りでは時々緊急時の対応を確認し合っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度自主避難訓練を実施しており、年に2回は消防立ち入りの避難訓練を実施している。また、避難訓練の際には町内会への呼びかけや運営推進会議日に行うなどして地域協力を得ている。	年2回消防署立会いの下、町内会にも声かけし、昼夜想定での避難訓練を実施しています。また月1回の自主訓練も行っています。訓練後は推進会議で報告し参加者と意見交換を行っています。今後、不安解消の為に自主訓練の回数を増やしていく予定です。	自然災害や大規模停電など予期せぬ事態を想定した災害を念頭にホーム独自の対策も求められます。水や食料、防寒具や毛布等の備蓄の再確認や避難場所の家族への事前周知も図り、利用者や家族の安心に繋がる取り組みを期待いたします。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな場面でも相手を敬いながら対応しており、まず受容し、その人にあった言葉を選んだり、傾聴しながら相手の心理を探って慎重に対応するようにしている。	職員は研修で接遇について学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応には十分な注意を払っています。トイレの誘導などではプライドを傷つけないよう利用者の立場に立って考えるよう心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの選択肢から選んでもらったり、ジェスチャーや背中をさするなどの非言語を利用したり、場面や時間を変えて反応を確かめるなど、一番本人らしい回答が出来る様工夫して対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には入居者の希望に合わない場面でも業務の優先順位を変えたり、時間をずらすなどして対応し、利用者のペースに職員が合わせるよう取り組んでいる。入浴の拒否や食事摂取量の増減希望等も本人の意思を尊重しながら対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には毎朝身だしなみの支援を実施しており、特に入浴後に爪切りや鼻毛のカット、髭剃りなど取り組むようにしている。外出前には本人の好みに合わせて服を選んだり、家族の希望する服を着てもらおうよう促している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おにぎりやぼた餅といった入居者も参加できる食事作りには随時参加を促している。日常的にもイモの皮むきや食器拭きなど役割をもって日々取り組んでいる。利用者が使用しやすい道具や場所で作業を行えるよう配慮している。	食事は品数も多く、ユニット毎に献立に創意工夫がみられ彩りよく盛り付けています。職員は、利用者一人ひとりのペースに合わせて、せかすことなく、介助をしたり、さりげなく見守り、会話を楽しみながら一緒に食事をしています。食事の準備や片づけは、利用者もできる範囲で手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分、水分の制限やカリウムを多く摂取するなど医療機関からの指示や、体重推移、昔からの食事習慣等踏まえながら食事提供をしている。ムセや嚥下に対応するため食材をカットしたり、横についてさりげなく見守る等の安全な食事支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、訪問の歯科診療でも口腔内の汚れや口腔ケア実践状況は良いと評価されている。拒否がある方にも時間をずらしたり、職員が替わる等して取り組みが継続できるように関わっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しており、膀胱炎の再発予防や失禁の回避、トイレでの排便、皮膚状態の維持、オムツの使用量の削減などそれぞれの目的に合わせて取り組んでいる。利尿剤や下剤の服用状況にも合わせて誘導を行っている。	個々の排泄の傾向を見極め記録しながら職員間で話し合い確認し支援しています。おむつ使用量を減らす為にも、トイレで排泄して頂けるよう声かけや早目の誘導を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、冷たい水など「私はこれを飲むと便が出る」といった本人なりの要望にも応えている。「出なくて心配だ」といった本人の気持ちに便秘に影響している場合も多く、一緒に解決に向けて取り組んでいく姿勢を大事にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入れるように体勢を整えており、利用者の希望に合わせて入浴できるように対応している。時間の希望や以前の生活習慣、声掛けの内容に配慮し、できるだけ入浴が負担にならず楽しみになるよう配慮している。	基本的に入浴日は決めています。利用者の希望に合わせて毎日入浴ができるよう体制を整えています。入浴を拒む場合には、無理強いせず曜日や時間を変えて勧めるなど、利用者の気持ちに沿って支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後など眠たい様子がある利用者には、本人の希望や状況に合わせて休息を促している。また、季節に合わせて寝具を取り替えたり、室温や湿度に配慮して環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	統一された方法に従い各職員が同じ服薬支援が出来るようにしている。いくつかの病院にかかっている利用者の薬作成や、処方変更後の投薬の際には職員2名以上で確認しながら服薬支援を行うなど慎重に対応するよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでの生活の中に役割を持っていただき（花の水やりや畑仕事、洗濯物たたみなど）能力を活かせる場を提供している。その方に合わせた楽しみごと（将棋、歌の鑑賞、散歩など）の支援を行い、張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニットの食材買い出しや、衣類や靴の購入の際には利用者も一緒に同行している。特に外出希望の多い場合は個別に行事として取り組んだり、家族にも協力をお願いして本人の希望を叶えるよう取り組んでいる。出来るだけ迅速に対応できるよう心掛けている。	日常の散歩をはじめ近隣のスーパーやドライブなどに出かけています。同系列ホームの年一回の「里の家祭り」には、全員で参加し楽しいひと時を過ごしています。個別対応が多くなってきており、家族の協力も得ながら可能な限り希望に沿うよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には本人の能力で支払できるよう小銭を用意するなど環境を作り、実際に支払ってもらったり、病院受診や予防接種の際には実際にかかる費用を本人に伝えて承諾を得ながらすすめるなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の希望が多い入居者には何度も電話を利用するのではなく、場面を変えたり、タイミングをみながら十分な満足が得られるような電話が出来る環境を整えている。電話を使用している際には職員はさり気なくその場から離れたり、電話の使用方法がわからない様子がある場合にはさりげなくサポートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	24年12月には大掛かりな環境整備を行い、整理整頓したきれいな環境づくりを行った。その際には入居者にも意見を聞いたり、一緒に掃除を行うなどして取り組んだ。季節感に合わせて掲示物を貼り換えたり、外部者が来た時も普段の様子が見えるような写真を掲示したりと外部者にも意識した環境づくりを行った。見学者が多い為普段からきれいなユニット作りを心がける様意識するようにした。	居間兼食堂は広く食卓テーブルのほかソファも置いてあり、利用者は、思い思いの場所で寛いでいます。居間の壁には手作りの大きなカレンダーが貼られており一目で日にちが確認できるようになっています。また廊下の壁には利用者の作品や行事の写真が飾られています。ホーム内は不快な臭いもなく、利用者が快適に居心地良く過ごせるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファや台所近くのソファなど、一部の入居者の転倒防止の為に設置したが、実際は一人になれる空間として様々な入居者が利用できる場となった。また、利用者同士と一緒に座ったり、座りながら掲示された写真を見たり、ハーモニカを吹いたりと思い思いに過ごせる空間づくりが出来ていると評価できる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活環境を実際に家に行き確認したり、家族からアセスメントしながら現在の生活環境を以前の生活環境と近づける様取り組んでいる。ベッドの高さや置き場所、馴染みの家具に収納する物等も本人や家族の意見を取り入れながら設置している。本人の意見を元に家族と協力しながら必要な物を揃えている。	居室には、利用者の馴染みの品が持ち込まれ、配置もそれぞれ工夫をし、利用者が安心して過ごせる場所になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	単独で外に出かけたり、玄関先で一人で過ごしたりと単独での行動に転倒事故などのリスクがある為、職員は本人の希望と転倒の危険性をバランスを取りながら対応している。過剰な関わりが本人の自尊心を傷つけたり、できる能力を制限してしまう為、職員はさりげなく対応できるよう心掛けている。		